



いなば卓夫活動報告 この号は一部、平成22年3月28日に発行したものを含まます。

もったいない新聞

無所属・無派閥・市民党 市民本位の市政を創ろう！

もったいない(勿体無い)とは、仏教用語の「物体(もったい)」を否定する語で物の本来あるべき姿がなくなるのを惜しみ、嘆く気持ちを表している。環境保護活動家のケニアのワンガリ・マータイさんが世界に広めました。

平成26年4月3日発行
発行人・いなば卓夫を支援する会
〒321-1415 日光市日光 2445-12



もう黙っていられない日光市議会！

今こそ、矢祭改革に学ぼう！合併した今こそ、行政と議会のムダを徹底的になくそう。約370万人の大ロサンゼルス市、議員はたった15人です。報酬も約半分。

●議員報酬日当制を提案します。市政にコスト感覚を。誰も言わない議員報酬の引き下げ！市民感覚からずれた市議。福島県矢祭町議会では2008年3月31日以降の議会(定数10人)から従来の月額20万8,000円を廃止し、議会等に1回出席するごとに3万円の日当制としました。

名古屋(人口226万人)の河村たかし市長は平成21年7月、公約通り市長退職金4,220万円を全廃しました。報酬も年800万円に大幅に引き下げました。もう5年も前のことです。「合併しないとやってけない！」と言って合併した新日光市なのに議員、市長などの報酬(市民のみなさまの税金)は高い方に引き上げ。この8年間、なんの改革も結果も出していない慣れ合いの日光市議会が続いたばかりか、次世代にお荷物になる施設まで決めてしまいました。

●議員・市長・副市長の報酬を大幅に削減していれば・・・

副市長を一人にし、議員、市長、副市長の報酬を旧日光市並みにしていれば、4年間で約2億8,000万円の節約ができ、市民みなさまのための福祉や教育の充実に使えたのです。貴重な税金が議員の人件費に消えてしまいました。行政とは市民への奉仕です。今の日光市議会の議員報酬の合計は一期4年で約9億円。日当制にすれば十分の一で済み、8億円以上を市民福祉やインフラ整備に使えるのです。今こそ根本改革を！



前矢祭町長根本良一さん。ヤサイ町、と呼ばれていた人口6,600人の矢祭町が一躍全国的に有名に。「合併しない町」を宣言し、自立の街づくりに乗り出す。副町長以下全員で便所掃除。議員報酬日当制の採用。全国から送ってもらった45万冊の本で作った「もったいない図書館」。前長野県知事・衆議員議員の田中康夫さん、河村たかし名古屋市長も「根本哲学」を学びに矢祭に。いなば卓夫も教えを乞っています。ひとり何役も兼ねる町の行政組織。学ぶべきことがたくさんあります。



現職のとき、訪ねた私たちにポケットマネーで買ったインスタントコーヒーを自ら心を込めて入れてくれました。感謝感激。

この4年間、市政の情報が全く届かなかったという多くの市民の声が寄せられています。

いなば卓夫の市民参加の議会改革案

- ①議員報酬の日当制導入と議員年金の廃止。
- ②議会の通年開催と移動議会の開催。
- ③公聴会など市民が発言できる場を創設。
- ④市民がつける議員・市長の通信簿。
- ⑤地域の代表を出せる小選挙区制の導入(公選法第15条6項、条例で選挙区を設けることができます)

■慣れ合い議会はやめよう！

平成15年、私は旧日光市議会一般質問における一問一答方式を提案し実現しました。今は議会の事前に議員が「質問通告」を行い、各課で答案をつくり、「この答えでいいでしょうか」と課長が議員のOKをもらう。まるで「茶番劇」のような儀式を行っています。こんな議会では活発な議論ができるわけがありません。こんな慣れ合い金太郎アメ議会に市民の税金を使われたらたまりません。平成21年中の会期は93日間、休会日が約50日あり、実際に議会があったのは約40日でした。地方自治法に定例会は年4回と決められていますが、会期の定めはありません。1会期90日にすれば通年開催できると私はかつて議会で提案・主張しました。地域間格差やハコモノ行政、日光市政は課題山積です。行政が複雑化した今、通年開催は必要です。文京区では通年議会が先月、3月20日に可決されました。

私が指摘していた議員年金は平成23年に破たんしました。

たった4年で8,000万円もの税金投入。ストップをかけられなかった日光市議会。こんなことが何十年も続いていた。必要な改革はどんどんやるべきです。

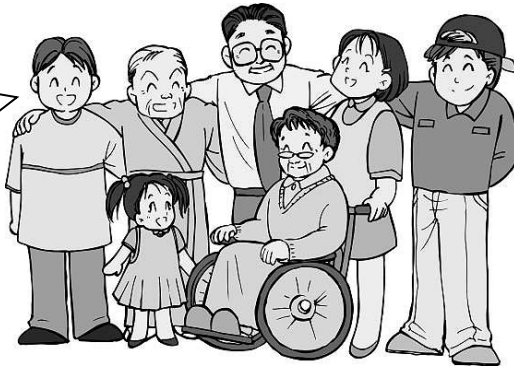
市民の税金からこんなに多額の議員年金原資が・・・			
年度	議員数	月額負担金	年合計
18年度	30	1,197,000	14,364,000
19年度	30	1,767,000	21,204,000
20年度	30	1,881,000	22,572,000
21年度	30	1,881,000	22,572,000
4年間の合計			80,712,000

●行政、市議会にコスト感覚を。

年収600万円の公務員の時給は約3,100円。日給約25,000円です。日光市長は年収1,474万円、時給約8,000円、日給約64,000円(一日8時間労働、含む退職金。稲葉の試算)です。退職金は一期4年で2,112万円。「民間で4年働いて退職金をくれと言ったら、バカヤローと言われる」と名古屋の河村市長は言っています。パートの方は時給800円くらいで働いている人が大多数です。こんなに多額の報酬を平気で貰っている人に庶民感覚が分かるはずありません。税金の使い方を徹底的に見直し、効率的な行政を推進します。行政も市民も意識の改革(コスト感覚)が必要です。以前、茂木町にゴミ施設の視察に行ったとき、議会の都合で約束の時間に遅れました。議員みんながその課長に怒られました。「私の時給は2,600円で町民の税金ですから」と。素晴らしい職員がいることに感激しました。自治体破綻は悲惨です。財政難の今、市長、議員自らが率先して範を示さなくてはなりません。

元レディオベリー営業課長の経験を活かし「エフエム NIKKO」をつくりまします。日光が楽しい街に変わります。

新潟県中越地震、東日本大震災で活躍したコミュニティ・ラジオ。「FM日光」をつくり、栃木の元気を日光からつくろう。コミュニティFMがないのは全国で栃木県だけ。やっば遅れてる。



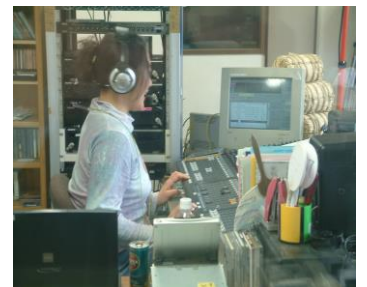
エフエムができるとう日光詣に来た内外からのミュージシャンもゲスト出演してくれるね。平原綾香さんも来てくれるかな。世界の日光だもの、きっと来てくれるさ。中禅寺湖畔のスタジオもいいね。世界に発信できるんだね。

- ①防災無線は災害の時に役に立ちませんでした。災害時に役に立ったのはコミュニティFMでした。高山市、浜松市に次いで、日本で三番目に広い面積の日光市。市民の命を守るためにも必要です。エフエム NIKKO ができれば、災害の時だけでなく教育や文化興しにも活用できます。みんなで日光の夢と未来を語り、一体感のある温かみのある日光市を築きましょう！



FMながおか社長、脇屋雄介さんから防災ラジオの説明を受ける。熱海市でも防災ラジオが大人気！1個200円で市民に配布したラジオ。AM、FM、同報防災無線が受信できます。中越地震の時は電気がつかず暗い中、家庭用発電機で放送。長岡市民も情報がない中、唯一の防災情報を「FMながおか」で得ることが出来ました。

栗山・足尾・藤原・今市・日光地区の全域で情報共有ができるのです。災害時に災害情報を迅速に届け、私たちの大切な命を守ってくれます。新潟中越地震のときにも大活躍しました。ふだんは観光客への情報提供や身近な地域の生活情報（商工会や議会の情報等）を発信でき情報が共有できます。災害時に防災無線はあまり役に立ちませんし、今市・栗山地区に同報系防災無線を設置するには数十億円かかります。コミュニティ・ラジオの開設費用は約5千万円です。



女性アナウンサーが交代で地域の生活情報を伝えている。

全国にはすでに281あり、コミュニティFMがないのは栃木県だけになりました。市民が全員参加できる県内初のコミュニティ・エフエムを日光につくりまします

- ②環境のことを真剣に考え、足尾町松木で植樹活動に参加しています。

この地球が酸性雨で悲鳴を上げています。微生物が住める土壌に改良することが急務です。NPO 法人「森びとプロジェクト委員会」理事として、足尾町松木・八幡平の植樹活動と炭を使う土壌改良を通して森や自然の大切さを広めています。地球を守ろうという意識の方々が参加しているNPO法人です。みなさまのご参加を心からお待ちしています。

- ③農薬使用量を減らし、子供たちにも安全な食卓を！

農薬使用量、世界一位はダントツ日本です。中国の約2倍、アメリカの10倍以上です。

- ④環境にやさしい軽自動車の普及・推進と軽自動車税の値上げ反対。(ナンバープレートの色も検討)

軽自動車は環境や道路への負担（道路損傷度は普通自動車の1/3。2トンクラスとでは約1/16）、大きな車に比べるとエコな乗り物です。先般、普通車との税金格差（普通自動車 1,000CC は 29,500 円、軽自動車乗用は 7,200 円）が大きいために値上げを決めてしまいましたが、軽自動車はセカンドカーであることが多く、地方都市での公共交通機関の不備を補う庶民の足であり、地下鉄が縦横無尽に走っている東京の役人には分かりません。地方の公共交通機関の不備を訴えます。ナンバープレートの色は現在、黄色になっていますがファッション性を考慮し、色の変更や選択制を国会議員に提案しています。

- ⑤自殺者を減らす取り組み。

残念なことに毎年3万人以上の方が自殺しています。この36年間で約100万人の方々が自殺しました。今の社会は夢や希望が持てないばかりか、地域に助けあいの精神が失われました。誰もが病気や生活苦で孤立することの無いよう手を差し伸べてくれる政治が求められているのです。

- ⑥生ごみを燃やさない取り組み。

高いお金で輸入した石油で生ゴミを燃やす馬鹿なことはやめて、バイオマスで活用します。日本の焼却場の数は約1,300か所。世界の三分の二が日本にあるのです。詳細はホームページのニュースレター平成18年3月18日号をご覧ください。脱原発や犬猫の殺処分反対の記事もあります。



足尾町松木溪谷に多くの仲間と木を植える。森びとプロジェクト委員会も今年で6年目を迎える。数十センチの小さな苗が今や4メートル以上の大きな樹になりました。

【いなば卓夫プロフィール】

●昭和25年5月5日渋谷区生まれ。63歳 ●慶應義塾大学法学部政治学科卒。●衆議院議員渡辺美智雄氏、参議院議員国井正幸氏の元秘書●FM栃木レディオベリー元営業課長●旧日光市議会議員一期。教育民生常任委員長 ●趣味は写真、アウトドア、野菜づくり、日曜大工。●平成13年、日光市永住を決め本籍を東京から日光市御幸町578に移す。●現在、NPO法人 森びとプロジェクト委員会理事、伝統を未来につなぐ会会員

■いなば卓夫を支援する会事務所：〒321-1415 日光市日光（萩垣面）2445-12

☎&fax 0288-50-1380 E-mail: inabatakuo@yahoo.co.jp ☎携帯 090-2913-1783 (au)

※ホームページ：http://inabatakuo.jimdo.com/ 「いなばたくお、もったいない」で検索してください。

ボランティア募集中！

ポスター貼り等のボランティアをお願いします。